

おもちゃ図書館Q&A

5号

発行者：特定非営利活動法人おもちゃの図書館全国連絡会

〒116-0001 東京都荒川区町屋2-7-5

電話03-6807-8813

FAX03-6807-8863

E-mail:renrakukai@toylib-jpn.org

今回の相談事業ニュースレターでは、過去に行ったおもちゃ図書館のアンケートに「おもちゃ図書館に遊びに来る方から年齢に応じたおもちゃの選び方を聞かれるので知りたい」「障害にあったおもちゃの選び方を知りたい」というご意見がでておりましたので『子どもとおもちゃ』をテーマにしました。

テーマ

子どもとおもちゃ

～おもちゃ遊びの効果、おもちゃの選び方～

おもちゃ遊びで、子どもたちは見る力、聞く力、感じる力、かかわりあう力を養うことができます。人間として生きる力を身につけられるのです。

おもちゃ作家の和久洋三氏は、「遊びが子供の成長・発達を促す食事であるとすれば、おもちゃはまさに食材である」と言っておられます。おもちゃにはご飯のように主食になるタイプと、キャラクターやゲームなどのおやつタイプとがあります。子どもが積極的にかかわることで楽しみを引き出すものから、遊びが限定され、刺激の強い、工夫の余地が少ないものまであります。

私たちは、子どもの心や知恵を育てるおもちゃをどのように選べばよいでしょうか。

- ①安全なおもちゃ 有害物質が溶け出さない塗料で、誤嚥しない大きさのもの（国民センター調査で直径4 cm以上）。角がとがっていない形状になっている。日本玩具協会のSTマーク、ヨーロッパの安全基準認証マークCEも参考になります。
- ②手や体を意欲的に使い工夫しながら主体的に遊べるもの。
- ③考える余地があり、繰り返し遊ぶことができるもの。
- ④シンプルで洗練されたデザインなもの。
- ⑤耐衝撃性に優れ耐久性があり、丈夫なもの。
- ⑥大人も子どもも皆が一緒に遊べるもの。
- ⑦美しく優しい音色や色の発達段階にあったもの。

良いものをいつまでも大切に使おうとする若いご両親も増えています。安全に楽しく遊ぶことのできるおもちゃを選んでください。

NPO法人おもちゃの図書館全国連絡会
副理事長 高村豊

発 達 の め や す と

玩 具 の 選 び 方

あおむけ時代（１） （およそ0～3ヶ月頃）

オルゴール、モビール、
ミュージックモビール 等

目、耳、口、手で感じる
泣く、乳を飲む。指をしゃぶろうとする。
音のする方をみる。



あおむけ時代（２） （およそ3～6ヶ月頃）

ガラガラおもちゃ、にぎにぎグッズ、
おしゃぶり、
起き上がりこぼし、動くぬいぐるみ

自分の手で持つ、しゃぶる、ふる。
寝返り、起き上がろうとし始める。
手に持ったものを投げる。
玩具に触ろうとして手を伸ばしたり
する。



ファーヴァ



キックトイ・あひる



オーボール

ハイハイ・おすわりの時代 （およそ7ヶ月～1歳頃）

ボール、車、いたずらボックス、
コップ重ね、太鼓

自分の力で体を動かす。
一人で座れるようになったり、指先が少し使えるようになる。
両手に持っているものを打ち合わせる。
物をたたく、押す、引っ張る、振るなど手の機能を獲得して
いく。
両手で玩具を使ったりして、だいぶ遊ぶようになる。



たたいてころころ



よくばりボックス

ヨチヨチ一人歩きの時代 (およそ1歳～2歳頃)

つかまり立ちして体のバランスをとる。
一人で立って歩き始める。
手も自由に使えるようになる。
多くのものに興味を持ち始める。

プルトイ、ボールたたき
押し車、型はめ、パズルボックス、乗用玩具
玉落とし (クーゲルバーン、くるくるチャイム等)



ポップアップトイ



とんとんボール



シェルズグロッケン



いろいろスイッチ
ひらいてとじて

すくすく時代 (およそ2歳～5歳頃)

～遊びもひろがる頃～

体も自由に動かせる、走り廻れる。
手の力が強くなり、自由に使えるようになる。
真似をしたがる。
言葉も、多語文となる。
友達と遊びたがる。一人遊びもできる。

大工さん遊び (ねじ、トンカチ、ツールボックスなど)
の道具、パズルボックス、ごっこあそび、カタカタ人形
ひも通し、おままごと、ドールハウス、キーボード



サボテン
バランス



大工さん



ドンケツゲーム



型はめ



カタミノ

わんぱく時代 (およそ5歳～6歳頃)

社会性、情緒性が発達する。
手指の操作性が向上する。
集団での遊びを楽しむ。

組み立ておもちゃ、カードゲーム、ボードゲーム
トランポリン、縄跳び、塗り絵



ブロックス



ハリガリ

今回、参考までに一般的な発達のみやすをまとめましたが、子どもの発達の仕方には個人差があります。

ブロックや積み木、玉落とし等は、様々な種類のものでています。部品のサイズや形によって対象年齢も変わりますので、それぞれのおもちゃの対象年齢を参考にしてください。



障害のある子とおもちゃについて

『障害のある子のために特別なおもちゃが必要でしょうか』という質問を受けますが、決して特別なおもちゃは必要ではありません。子どもにとって良いおもちゃであれば、障害を持つ子どもにとっても良いおもちゃなのです。しかし、細かい指の動きなどが難しい子どもの場合は、パズルのつまみを大きくしたり、電動のおもちゃの場合には特別なスイッチを使用するなど工夫する必要があるでしょう。また、子どもたちが遊びやすいような工夫をした布のおもちゃを作っているおもちゃ図書館もあります。いくつかのおもちゃ図書館から、障害のあるお子さんが、実際に遊んでいるおもちゃを紹介してもらいました。

くつきむし 夢工房ももたろう

棒磁石を垂直に水平に動かして、芋虫をくつきけるものです。
全盲の子も、位置関係を学び夢中で遊びました。



名古屋中村
おもちゃ図書館
高村豊

シロフォン付 玉の塔 ベック社(ドイツ)

小さな穴にビー玉を入れるとコロコロころがり最後に鉄琴の音が響くものです。
指先の機能の発達になるので人気があります。



おもちゃ図書館あそびむし
安達恵

くるくるチャイム くもん

ボールを入れるとくるくとスロープを転がりコロリと出口から出てきます。
シンプルな動きですが気が付くと目でボールの動きを追っています。「追視」という脳に必要な反応だそうです。



吉祥寺
おもちゃ図書館mini
藤井美里

キーボード(デモ演奏付きのもの)

自分で弾くことはむずかしくても、何度も、スイッチをおして好きな曲を確認しては楽しんでいます。



おもちゃ図書館すてっぷ
隅田ひとみ

プラレール タカラトミー

根強い人気があります。
楕円形のテーブル一杯にレールを並べその中に2段重ねの円形のレール、新幹線やトーマスの電車を走らせストップさせたり連結したり、時々車両を持ち上げて音を楽しんだり、下肢に軽い麻痺がある彼は疲れると自分で寝転びコントロールしながら大好きな電車の走る姿を眺めています。
プラレールの周りはいつも賑やかです。

おもちゃの図書館あいじえん
松原ミチ



他にも

レジスター、アンパンマンシリーズのキッチンや病院、パン屋さんシリーズ等
(ごっこ遊びは、お母さんやボランティアと一緒にしかわって遊んでもす)
ボールプール、乗り物、コップ(ペットボトルをつなぐ金具)、タンバリン等があがりました。



相談事業担当者より

「子どもとおもちゃ」をテーマに5号をお送りいたします。障害のある子どもに合わせたおもちゃの工夫は、たとえば「シロフォン付玉の塔」はつまむ力が未熟の時、小さな穴に入れにくいですが、ハガキを「じょうご」のようにして入れやすくしたり、「おえかきせんせい」はペンをティッシュと包帯で調節して持ちやすくすれば遊びを楽しめます。そして、おもちゃには絶対安心・安全は無い事をいつも心掛けてほしいと思います。(松原)

相談事業担当(青塚・岸・松原・山本)